



Safe Crop Project News



No.6 2017年9月26日発行

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト（2016年～2021年）」は、北部地域2市11省において、「Basic GAP (Good Agricultural Practices)」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動、消費者の安全野菜への信頼醸成、及び、多様なサプライ・チェーンの構築を支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を目指します。

バリューチェーンにおけるステークホルダーの新しい関係づくり

安全作物の信頼性を向上させるためには、単に安全な作物を生産するだけでなく、作物を安全なまま消費者にまで送り届けるとともに、作物の安全性について適切に消費者に説明し、消費者に納得してもらう必要があります。このため、プロジェクトはBasic GAPに基づく安全作物の生産体制の構築に加え、生産された作物のバリューチェーンの構築を支援対象としています。

消費者の声を生産者に

ベトナムの野菜のバリューチェーンは、多くの関係者と複雑な経路が特徴です。小売り以外の関係者は、最終消費者の顔を知らずに野菜を扱っているケースが多いです。この中で、生産者と買



い手の関心は、いかに高く売るか、安く買うかに集中し、消費者の声を反映した安全な野菜を供給することへの意識が希薄となりがちです。

安全作物への信頼性を高めるためには、生産者のみならず、流通業者や小売業者などバリューチェーンの関係者が一致団結して、安全性を担保し、消費者にも説明する、このような新しい関係が求められているのです。ただ作物を作る、できた作物を買って売るだけでなく、各ステークホルダーが消費者に安全な作物を届けるためにできることに、責任をもって取り組む必要があります。生産者は消費者が何を求めているのかを知り、生産に活かす必要があります。生産者が消費者の声を知り、市場の求める野菜を作るためには、買い手の協力が不可欠です。現状では、買い手が生産者に十分なフィードバックを行っているわけではあり

ません。買い手が消費者に代わって、市場のニーズをより的確に生産者に伝え、技術的な助言をすることで長期的には安定した供給業者を育てることにつながります。

安全作物ビジネスフォーラム

プロジェクトでは、このようなステークホルダーの新たな関係づくりを支援するため、8月22日にハノイ市人民委員会傘下のハノイ・プロモーション・エージェンシー(HPA)と共同で「安全作物ビジネスフォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、プロジェクトが支援する生産者グループの野菜の展示、マッチングに加え、政府関係者、生産者、買い手、消費者代表、農業関連企業が一堂に会し、「安全作物ビジネスのあり方」について自由に意見交換をする場を設けました。従来型のセミナーなど一方向のコミュニケーションではなく、お互いの課題を共有することにより、相互理解と問題解決が進むと考えたからです。フォーラムには180名を超える参加者があり、熱心な意見交換が行われました。参加者からはより厳しい政府による統制、安全性向上にかかる生産者や買い手のより一層の努力を求め

る声に加え、ステークホルダーが協力する体制の構築や生産者、流通業者への安全性に関する意識啓発、消費者が安全性を確認するための情報提供、有益な情報やグッドプラクティス共有の必要性など、様々な意見が出されました。プロジェクトでは、バリューチェーンにおける信頼性の醸成を目指し、今後もこうした意見交換の場を継続的に設ける予定です。



フォーラム終了後、HPA、対象市・省の政府、農家グループの関係者と

プロジェクトの進捗と今後の計画

本プロジェクトが開始されて一年強が経過しました。このニュースレターでは、この間に実施されたプロジェクト活動を随時ご報告しておりますが、この機会にこれまでのプロジェクトの進捗状況と今後の計画について、一度総括させていただきます。

2016年7月から9月まで

2名の長期専門家がハノイに着任後、プロジェクト事務所を設立した上で、プロジェクト実施機関である農業農村開発省の作物生産局や他の関係局と打ち合わせを実施するとともに、プロジェクト対象省のうちパイロット省とセミパイロット省を訪問し、プロジェクト開始の準備を行いました。

2016年10月から2017年3月まで

パイロット省（ハノイ市、ハイズオン省、ハナム省、フンエン省）において、協力対象農家グループの候補に対するベースライン調査、将来の潜在的な購買者に対する市場調査、消費者の傾向を定性的に分析する消費者調査を実施しました。これらの調査結果に基づき、ハイズオン省は3、ハナム省とフンエン省はそれぞれ2の合計7グループを選定しました。また、パイロット活動実施計画及び安全作物生産と食の安全に関する意識啓発活動計画を策定しました。更にはプロジェクトの目標、成果や活動についても指標を設定し、2017年4月17日に開催された合同調整委員会(Joint Coordinating Committee/JCC)で正式に承認されました。これらの活動と並行し、2017年1月からは、具体的な支援活動の手始めとしてパイロット省及びセミパイロット省を対

象に GAP 生産並びにマーケティングに関する指導員研修 (Training of Trainers) を行いました。

2017年4月以降

パイロット 3 省の協力対象農家グループに対する生産とマーケティングについてのパイロット活動、並びに意識啓発活動が本格的に開始され、生産における GAP の適用、農産物の品質向上、共同生産・共同販売の実施、優良な生産者と購買者のマッチング、安全野菜の信頼性の確保、消費者等の安全野菜に対する意識のより高いレベルへの移行などの課題に取り組んでいます。パイロット省の対象農家 7 グループに焦点をあてた支援は基本的には 2018 年 9 月まで続きますが、特にこれからプロジェクト対象地域は野菜栽培が最も拡大する冬作の時期に入っていきますので、

対象グループの紹介

本コーナーの第 1 回目は、フンエン省の Japan-Vietnam Vegetable, Fruit Joint Stock Company (ベトナム語名: CÔNG TY CỔ PHẦN RAU, CỦ, QUẢ NHẬT VIỆT) を紹介させていただきます。2016 年に設立された新しい会社で、メンバーは 6 名、栽培面積は 2ha でレタス、キャベツ、トマト、スイカなどの野菜や果物を生産しています。この会社にはユニークな特徴が 2 点あります。

特徴 1 「日本式の栽培技術」: 1 点目の特徴は、2 名のメンバーが技能研修生制度を利用して長野県川上村で農業研修を受けたことです。川上村は日本有数のレタス産地です。同社はそこで学んだ栽培技術を基にフンエン省にて栽培を行っており、ハノイ近郊では珍しい結球性レタス(葉が重なりあって球状)を生産できるなど、高い技術力を有しています。会社名に “Japan-Vietnam” という単語が含まれているのは日本式の栽培技術を導入していることに由来します。



病害虫は発生しておらず、高品質なレタスが生産されている

JICA プロジェクトチームの紹介

プロジェクトのチームメンバーを紹介させていただく本コーナーの第 6 回目は、丸山英樹専門家(日本工営)の自己紹介です。

プロジェクトで共同販売/共同購買事業/畑作物栽培を担当しております。JGAP(日本における GAP)の指導員でもあります。

本プロジェクトが始まる直前までは、ペルーのアンデス山脈に住む小規模な農家さんを対象とした生計向上プロジェクトに従事していました。そのプロジェクトでは対象作物であるエンドウ豆と紫トウモロコシの栽培技術指導や、共同販売実施に向けた農民組織強化を担当していました。

安全作物生産の振興にとって重要なことは、農家さんが儲かることだと考えています。農家は安全な農産物を生産しなければなら

ないという理念は重要でそのための制度や規制も必要ですが、安全作物の生産が広がるためには、それらに加えて農家さんが儲かる生産販売体制を構築する必要があります。そのために、栽培技術の改良による農産物の品質向上や農薬使用量の削減、販売体制の改良による販売単価上昇などを進めて参ります。

セミパイロット省(タイビン省、ビンフック省、フートー省)

本格的な支援は 2018 年 10 月以降の予定ですが、自らの人員と予算を動員する省については 2017 年よりプロジェクトチームからの限定的な技術的支援を得ながら、活動を始動して行きます。ベースライン調査、市場調査の実施結果に基づき対象農家グループの事前的な選定を行った上で、市場との対話に基づく Basic GAP による生産の実施など本来のパイロット活動の一部を実施し、その後の本格支援がより効果的なものとなるようにする計画です。(熊代輝義/チーフアドバイザー)

特徴 2 「消費者への直接販売」: 2 点目の特徴は、畑からハノイ市まで車で 2 時間以内という立地を活かして、ハノイ市の消費者へ直接販売を実施していることです。特に、Facebook を利用した消費者の開拓および注文取り付けも実施するなど、新しい販売方法を積極的に導入しています。注文を受けた野菜は、週に 2 回、バイクで畑から直接輸送しています。

プロジェクト活動 1 「栽培技術の改良」: 同社はレタスについては日本での研修によって非常に高い栽培技術を有していますが、その他の野菜・果物については栽培技術に改良の余地があります。そこでプロジェクトでは、栽培技術の改良による安全性向上や、農産物の品質向上による販売競争力向上を支援しています。具体的には、堆肥製造方法の改良による病害発生リスクの軽減、育苗方法の改良による品質向上、不織布という一種の防虫ネット利用による殺虫剤使用削減などを実施しています。

プロジェクト活動 2 「規模拡大に向けた新規顧客の確保」: 同社は規模拡大を押し進めており、従来の個人消費者に加えて大口の販売先の確保が課題です。そこでプロジェクトでは、安全野菜を取り扱う業者とのマッチングを支援しています。これまでの活動によって既に小売店やレストランを傘下にもつ流通関連企業 1 社との契約を締結し取引を開始している他、日本人を対象とした野菜販売会社やベトナム有数の大手スーパーマーケットとも取引実施に向けた商談を進めています。

プロジェクトでは、同社の活動が他の農民組織の模範となる成功モデルの一つとなることを目指し、各種活動を展開しています。



対象グループ代表と栽培状況を確認する筆者(右)

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

JICA プロジェクト事務所

住所: Room 201, Department of Crop Production, Ministry of Agriculture and Rural Development,
2 Ngoc Ha Str., Ba Dinh Dist., Hanoi, Vietnam
Tel/Fax: +84 24 3244 4373